事例No.	1914
公表年度	R4
団体の属性	町村
団体名	香川県小豆島町、土庄町

事例区分	公営企業

タグ	・病院事業 ・組織改革 ・公共施設活用

事例種類	広域化等

事例内容・タイトル

離島に所在する町立病院の再編

出典

公営企業の持続可能な経営の確保に向けた先進・優良事例集

【香川県小豆島中央病院企業団】
離島に所在する町立病院の再編

広域化等 **病院事業**

香川県小豆島中央病院企業団総務課

● 取組の概要

小豆保健医療圏に持続可能な医療提供体制を構築するため、2つの公立病院を統合再編し、新たに中核となる新病院を建設した。

◆総事業費　病院施設整備費69.6億円、 医療器械等整備費及び事務費18.9億円

◆背景

- 小豆医療圏では２つの公立病院が24時間365日の医療を支えてきていたが、新医師臨床研修制度導入に伴う医師の引き上げや、島嶼部という地理的要因による、薬剤師、看護師などのスタッフの不足のため、島内で対応可能だった疾患への対応が困難となった。
- 収支状況も悪化し、両病院とも救急医療体制を維持できない状況に直面していた。
- 耐震化されていない病棟もあり、東南海・南海地震等への対策も求められていた。
- これらを解決するため、中核病院を新たに整備し医療機能の集約化を図り、旧病院は無床診療所とした。

◆具体的内容

- 2つの公立病院（合計312床）を統合再編し、新たに新病院（234床）を建設した。旧病院跡地は診療所として活用し、慢性疾患のある患者の対応を行うこととした。

◆効果

- スタッフや医療機器等の集約により、応援医師等の非常勤人件費及び経費が削減された（平成27年度と令和2年度で比較　▲約1.9億円）。

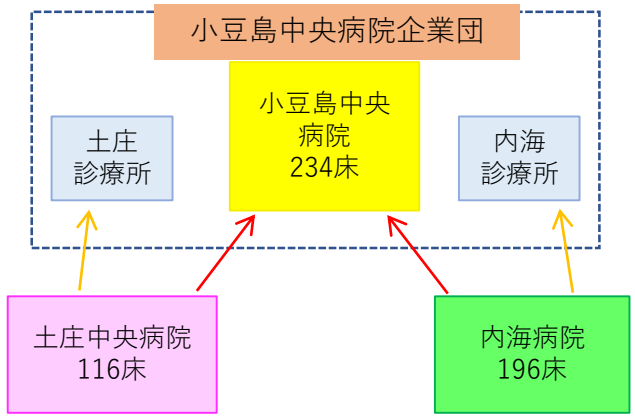
● 取組のポイント

- 両病院で異なる組織文化（使用する診療材料、医療機器、業務手順等）を統一するため、開院1年前より併任辞令を出し各部門に責任者を設けて、調整を行った。
- 財源を確保するため、地域医療臨時特例交付金等の国庫支出金、病院事業債（特別分）、過疎債等を活用した。
- 住民の再編への理解のため、住民代表による「地域医療を守り育てる島民会議」を発足し、「島民運動」として、講演会などのイベントのほか、島民会議通信といった広報誌を発行した。

● 公営企業情報

- 行政区域内人口　13,881人（令和4年1月1日時点）
- 行政区域内面積　95.59km^2（令和4年1月1日時点）
- 許可病床　234床（令和3年度決算）

統合再編イメージ



● 取組のスケジュール

- 平成23年　小豆医療圏の医療を考える検討会を設置
- 平成24年　一部事務組合を設立
- 平成28年　小豆島中央病院　開院

● 今後の展望

- 再編・統合の大きな目的であった常勤医師の確保については進展していない。また、看護師等についても、新型感染症流行の影響もあり、確保に苦慮している状況にある。新たに職員宿舎を建設するなど、スタッフ確保に努めていく。
- 地域包括ケア体制の拡充を図る。